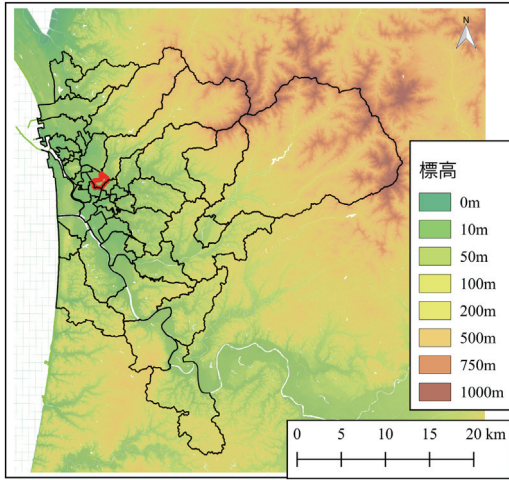


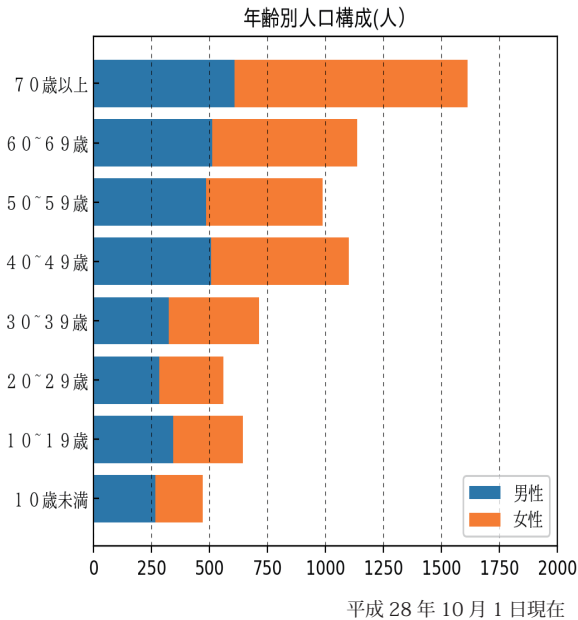
19：保戸野小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	7,213 人
世帯数	3,623 世帯
65 歳以上人口	2,199 人
10 歳未満人口	469 人



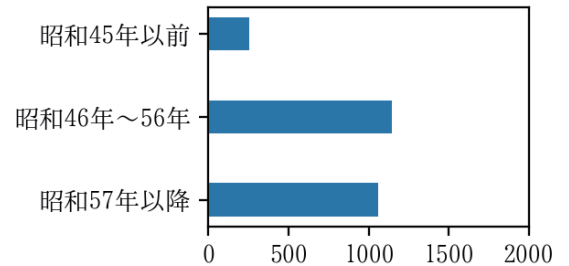
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	2457
非木造建物	405

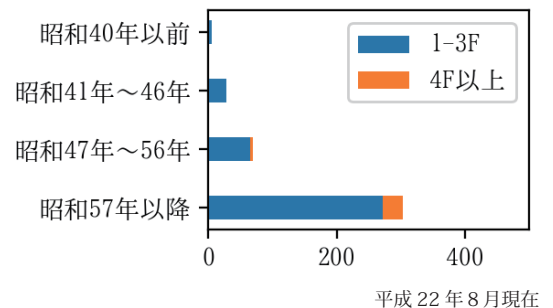
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	1,059
昭和46年～56年	1,146
昭和45年以前	252



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	272	31
昭和47年～56年	65	4
昭和41年～46年	28	0
昭和40年以前	5	0



自然的・社会的基本指標

秋田市街地の中央部に位置する。東側を旭川が流れており、概ね平坦な地形となっている。千秋公園との境界付近には急傾斜地崩壊危険箇所がある。人口、建物棟数とも集中しており、病院や教育機関ほか公共的施設も多い。年齢別人口構成としては中高年齢者層の比率が高い。65歳以上の高齢者層は全体の31%を占め、中央部では高い方の部類である。非木造建物が多い。昭和57年以降の建築物は全体の48%である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	旭川		
浸水面積 (%)	2.0		
最大浸水深 (m)	ランク 5		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	2	千秋中島、矢留町
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	1	北の丸
なだれ危険箇所	4	千秋公園、千秋北の丸 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度 (計測震度)	震度 6 強 (6.02)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	81	
液状化危険度ランク	5	
建物全壊率 (%)	8.3	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)
最大浸水深 (m)	(該当なし)

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	6
婦人幼児支援	2
障がい者等支援	4

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	5
こども園	1
幼稚園	2

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	4

■ 学校等

種別	施設数
小学校	2
中学校	1
高等学校	2
大学・短大・高専	1
養護学校等	1

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	86
防火水槽 (箇所)	11
消防車台数 (台)	11
消防ポンプ数 (台)	1
消防団員数 (人)	29

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	3
土砂災害	3
地震	3
津波	0
福祉避難所	1
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	13
最寄りの救急告示病院	秋田県立 脳血管研究センター
自主防災組織数	28

自然災害時の危険要素

河川の氾濫により、旭川右岸の一部(保戸野中町付近)で 5m 以上の浸水となることが想定されている。

土砂災害の危険性は千秋公園付近で指摘されているが、現時点では警戒区域等の指定はない。

地震時の揺れやすさは学校区の東部から西部へ向かうにつれ、揺れやすくなっている。液状化が発生する危険性は高い。津波による浸水の可能性は想定されていない。

防災上の課題と対策

保戸野小学校区内には、公共施設が多く、病院(13 施設)も多数あることから防災関連施設は充実している。指定避難所の収容可能人員は学校区内人口の約 7% 程度であるが、昼間人口を考慮するとさらに不足する可能性がある。防災対応力を期待できる年齢層が減少傾向にある。住民同士の協力により災害時要援護者の迅速な避難も可能となると期待される。

木造建物の密集度が高いため、火災が発生した場合には延焼の危険性がある。災害時には落下物などによる交通障害や渋滞が発生するなど、平時と比較して消防車の駆けつけ時間が長くなることが予測され、出火の防止、初期消火といった住民の取り組みが重要である。また、狭い道路では建物の倒壊・落下物の散乱などにより道路通行が阻害され、避難路として使用できなくなることも考えられる。

危険箇所や避難施設の位置について住民に十分な情報を提

供し、防災訓練等を実施する際などに併せて地域の危険要素について確認しておく必要がある。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
保戸野地区コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	111人
保戸野小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	3,670人
保戸野小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	419人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
光峰苑ショートステイ ケアホテルほどの	保戸野すわ町 8-24	018-893-6341

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

